

他力

― 位職便り ―



第十四号 (平成二十八年五月)

専徳寺住職 弘中満雄

【梅の花】

最近、こんな話を聴聞しました。
二月になり、近所を散歩していたS師。
すると向こうから茶道の先生が歩いてこられたので挨拶しました。

「梅の花がきれいに咲きましたね。」

「……ご院家さん、日本語を知りませんね。」

梅は咲くでなく『ほころぶ』と言います。」

半月後、再び先生に会った際、

「ほころんでた梅が、散っちゃいましたね。」

「……ご院家さん。日本語を知りませんね。」

梅は散るでなく『こぼれる』です。」

悔しい思いをしました。が、日本語の美しさに感動したそうです。

【ご往生】

「梅が咲く」、「梅が散る」

も間違いではありません。し



かし花は花でも、梅にはもつと相応しい言い方があります。

浄土真宗の方が、今生を終えられた場合、

「亡くなられた」や、「逝かれた」以外に

大切な言い方があります。「お浄土に往生

された」、「往生の素懐をとげられた」です。

仏の願い (第18願) の因縁を聞き、他

力の声を喜んだ人生です。

「死んで終わりにはさせない。必ずわが浄土で仏にしてみせる」という阿弥陀さま。

仏の慈光に育てられた故人は、他でもな

い「浄土」に「往生」されたのです。

「永眠した」も可笑しいです。「天国に生まれた」、「星になった」も、綺麗な響きですが、根拠なき現代の流行り言葉です。

【お念珠】

さて最近、こんな諺を知りました。

マナーが、人間をつくる。

(Manners make the man.)

東洋西洋に関わらず、マナ

ー (礼儀作法) は大切です。

食事や社会のマナーは、窮屈

ですが、自然とその人を成長させます。

浄土真宗にも当然、マナーがあります。

まずお勤めの際、念珠は左手に持ちます。

念珠がなければ救わない仏さまではありません。だからといって仏さまを手づかみにするような行為は慎みます。

念珠の持ち方、合掌・礼拝の仕方、焼香作法、読経。また仏壇の飾り方やお給仕にもマナーがあります。更に「お浄土に往生された」等、正しい言葉づかいがあります。ご不明なら、いつでもお尋ねください。

【聴聞というマナー】

そして法座参詣の「お聴聞」は、真宗門徒の最大のマナーです。何故なら聴聞こそ、私たちが真実の念仏者に育てるからです。

浄土真宗は「念仏一つ」の教えです。故に誤解の多い教えです。だからこそマナーとして仏法聴聞を心がけます。

聴聞を習慣づけます。決してテレビ等でいう『よりよく生きるためのヒント』ではありません。すぐ役に立つ話ではありません。しかし「私のいのちの問題」です。

普通の人も、いや他ならぬ私自身、聞き間違えてしまいがちです。だからこそ、法座でご一緒にお聴聞しましょう。(おわり)

